

しもやま

支所だより

Vol.185

下山地区データ	
人口	4,331人 (-117)
男性	2,163人 (-54)
女性	2,168人 (-63)
世帯数	1,676世帯 (-4)
8月1日現在 ()は前年同月比	

令和2年9月15日発行



下山地域
まちづくり
推進協議会

次期まちづくりアクションプランについての話し合いが進んでいます



みんなでつくる
アクションプラン!

7月30日(木)に下山支所で今年度第1回目の下山地域まちづくり推進協議会を開催しました。

協議会では、昨年度に引き続き、下山地域のまちづくりについて話し合い、アクションプランの策定を進めています。

次期プランでは、6つの分野(定住・移住、生活環境、産業、農地保全、観光、基盤整備)と7つの自治区別の事業計画について、今後5年間の取り組み内容を検討しています。

現在、計画している取り組みの一部をご紹介します。

分野別プラン:生活環境(子育て)

子育てでは、大沼・東部の両こども園や交流館、社会福祉協議会、市地域保健課などの関係団体により、事業計画を立てています。昨年度ヒアリングを実施した子育て世代から挙げられた課題等をもとに、次の事業について取組内容を検討しています。

- 事業1 子育て世代が情報を得られる仕組み
 - 事業2 子育てを支援する団体同士の情報共有
 - 事業3 子ども及び子育て世代の居場所づくり など
- 子育てしやすい地域を目指して、さらに検討を進めます。



▲子育てに関する意見交換会のメンバー



▲三巴自治区の検討の様子

自治区別プラン:三巴自治区

三巴自治区では、住民の減少と高齢化に伴う自治区や組の運営の担い手不足、農地の維持管理のための獣害対策などが課題となっています。

今後5年間の取組として、関係人口を維持するため、地区外への転出者との関係づくりのための交流事業を継続的に行うことにしました。

また、獣害対策として、特にサルを防除するために電気柵の設置や空気銃の活用を行うことにしました。

下山地区の現住者も対象「山村地域在住職員」募集!

申込期間 令和2年10月1日(木曜日)~21日(水曜日)

アフターコロナ期を見据え、新たなライフスタイルを提案できる「山村地域在住職員」を募集します。主な募集資格は、昭和36年4月2日以降に生まれた人で、採用時から山村地域に住居できる人。募集要項及び様式は10月1日から人事課窓口で配布します。(ホームページからもダウンロードできます) ■問合せ 人事課 電話34-6609



編集・発行/豊田市役所下山支所/毎月15日発行/〒444-3242 愛知県豊田市大沼町越田和37-1/
TEL0565・90・2111/FAX0565・90・3344/E-mail shimoyama-shisho@city.toyota.aichi.jp
地域記者を募集中! あなたの伝えたい地域情報を支所だよりに掲載しませんか!



地域保健課 保健師

たかの
高野 なおみ

今年4月から下山地区を担当。育児・健康相談などお気軽に声をかけてください！
個別訪問もしています！

地域の健康づくり 保健師がお手伝いします！

私たち保健師は、赤ちゃんから高齢者までを対象に育児・健康相談を実施したり、子育て、生活習慣病予防、介護予防を中心に
出前健康講座を開催して、みなさんの健康づくりを応援しています。

豊田市は面積が広く、都市部や山村地域、人口も中学校区単位で3万から数千人と地域の特性が大きく違います。地域保健課では、その特性に合わせて、地域のみなさんと共働での健康づくりを進めています。

今年度、下山地区ではタイミングよく「まちづくりアクションプラン」が作成されています。みなさんと意見交換をしながら、「下山」らしい地域づくりのお手伝いができたらいいなと“ワクワク”した気持ちでいますので、よろしくお願ひします。

■連絡先 地域保健課（足助支所内：担当 高野） 電話62-0603



▲握力測定など健康チェックの様子

コロナ禍での防災訓練 小規模でも防災意識高く

8月30日（日）規模や時間を縮小しつつも、各地区の自主防災会が中心となって工夫を凝らした防災訓練が実施されました。

花山自主防災会では、花山小学校の体育館に防災役員が集まり、避難所運営の疑似体験「避難所運営ゲーム（HUG）」を取り入れた訓練を行いました。

避難者役と運営役に分かれて実施され、例えば、「世帯主は車いす利用。車で来た。」というカードを手にした避難者役に対し、運営役は、適切な避難先や対応方法を考え、実際に人を誘導していました。

会長の酒井順之さんは、「今年は、規模を縮小しての訓練となりましたが、避難所運営に特化した訓練ができた。」と、今後も自治区内の防災意識を高めていきたいと意気込みを語っていました。



▲避難者を適切な避難先へ誘導する様子



**Road to Mikawako SS
Rally Japan 2020**

しもやまラリーイベント実行委員会
ラリーイベント情報③

残念！無念！Rally Japan2020 開催中止

先日、ラリージャパン運営事務局から今年のラリージャパン開催を断念するという発表がありました。新型コロナウイルス感染拡大を受けて、外国人選手及び関係者の入国の見通しが立たないためです。

しもやまラリーイベント実行委員会では、三河湖SSでのイベント開催に向けて、着実に準備を進めていただけに、Rally Japan2020の開催断念は非常に残念な結果となってしまいました。しかしながら、実行委員の皆さんは気持ちを切り替えて、来年度に向けた活動を始めています。今後も引き続き実行委員会の活動状況をお伝えします。



▲昨年のセントラルラリー愛知・岐阜の写真
来年こそは、実現したい三河湖SS

わくわく事業追加団体として新規2団体が決定!今年度は半数以上が新規団体!

わくわく事業の追加募集により、以下の2団体（新規）へ補助金の交付が決定し、令和2年度のわくわく事業団体は計13団体（新規団体8団体）、交付額は4,976,000円となりました。新規団体が半数以上と、わくわく事業に対する関心の高さが伺えます。今後も、仲間を誘ってわくわく事業に参加してみませんか？

団体名	事業名	事業内容	交付額（円）
① 三河湖 SS 広報部	三河湖 SS プロモーションビデオ作製	三河湖 SS ラリープロモーションビデオ作成による、ラリーイベント広報	989,000
② 三河湖の自然と環境を考える会	三河湖の自然を理解して楽しむ事業	魚類放流、調査・清掃活動、釣り大会	180,000
2団体とも新規団体です。		計	1,169,000

令和2年度 わくわく団体の活動紹介

- 団体名：しもやまロケットプロジェクト
- 事業名：こどもが育つ☆モデルロケット教室
- 代表者：伊藤いぶき（平瀬町）



▲ロケットの発射準備をする様子

こどもが育つ☆モデルロケット教室は、「本物のロケットと同じ構造のモデルロケットをつかって飛ばす教室を開きたい。地域の子どもたちがスタッフをして、成長して行ってほしい。」と、今年度のわくわく事業に申請した伊藤さん。

教室の内容は、「モデルロケットづくりとその打ち上げ。」できるだけ多くの子どもに体験してもらいたいと考え、9月から3月まで毎月教室を開く計画を立てたそうです。

スタッフは小学3年生から大学2年生までの下山の子ども11名。教室実施日には、参加する子どもたちのサポートを行います。

子どもたちが中心となって教室を実施していくことで、主体性や協調性が芽生えるような、教室に参加する子どもたちが、自信や新しいことへの挑戦意識が芽生えるような、そんな教室にしていきたいと伊藤さんは語ってくれました。



▲代表の伊藤さん

地域記者の突撃レポート

あいぞめ 藍染が新たな下山の魅力のひとつ!



伊藤 みこ（小松野町）

令和2年劇団・笑劇派に就職お山育ちのお茶の間アイドルとして活躍。

今後も、地域記者として下山地区の情報発信に力を入れていきますので、よろしくお祈りします♪



▲染上げた作品を持つ齋藤さん

下山田代町に藍染をしている方が見えると言うことで、取材に伺いました。

絞り染めアーティストの齋藤和雄^{かずお}さんは、自然に囲まれて鳥のさえずりを聞きながら創作活動できる環境が素敵だと下山に移住し、自然なものにこだわった藍染を始めたそうです。

藍染技術はなんと独学！阿波藍天然灰汁発酵建て^{あわ あいてんねん あく はっこうだ}という特殊な藍染料液の作り方で、藍草を発酵させて染料をつくる伝統的技法です。pHや温度を常に調整し続け、一枚一枚丁寧に染め重ねて作品ができあがるんですって！

気の遠くなるような手間と時間がかかるからこそその風合いなんですね。素材も、できるだけ自然なもの、地元のものにこだわっていきたくと、羽布町にある「長命泉」の水を使用！齋藤さんは「藍染が新たな下山の魅力のひとつになれば！藍染体験など、地域と関わりを深めていきたい。」と話を聞くことができました。

ストップ・ザ 交通事故 交通安全協会による啓発活動!

愛知県の交通事故・死亡者数は依然として多く、下山地区でも一昨年、昨年と続けてオートバイによる死亡事故が発生しています。また、今年に入り国道301号で横断歩道を通行中の子どもが大型車両にひかれそうになり、あわや大惨事という事例もありました。

交通安全協会足助下山分会では、地区内の交通事故を未然に防ぐため、交通安全立哨をはじめとした取組をおこなっています。今年度は、全ての小学校へ通行手旗と全生徒へ交通安全啓発グッズの配布を行いました。

支部長の^{とよきのすけ} 轟田時之助さん、分会長の^{しんじ} 中根真治さん、監事の^{ふみお} 澤田文雄さんは、交通事故の無い安心安全の地域となるよう、住民の皆さんの交通安全意識の高揚を願っておられました。



▲巴ヶ丘小へ啓発グッズを届ける足助下山分会の役員
左から中根さん、轟田さん、澤田さん

お知らせ information

市営住宅(大沼住宅) 入居者募集中!

下山地区にも、市営住宅があることをご存じですか?

森林組合下山事業所の北側にある大沼住宅は、平成16年築、低層耐火(集合)2階建。市営住宅では珍しい、各戸用の屋外倉庫もあります。

家族向けの住宅(单身不可)で、家族全員の収入基準が設けられています。現在、空室がありますので、ぜひご利用ください。

- 収入基準(年収) 約346万円以上約867万円未満 ※収入は3人家族の場合(30代の夫婦と子ども世帯)の参考例で世帯全員の合計収入
- 家賃 47,000円/月 ■ 駐車場使用料 500円/月(1台につき)
- 問合せ 豊田市営住宅管理事務所 電話36-0655



▲室内の様子
大沼住宅(2LDK:6戸、3DK4戸)

警察への相談ダイヤルは「#9110」! 緊急電話は「110番」!

110番は緊急通報のための専用電話です。緊急の対応を必要としない相談等が「110番」に寄せられると、事件・事故等緊急通報に対する警察の対応に支障が生じるおそれがあります。各種相談等警察による緊急の対応を必要としないものについては、「#9110」へ電話していただくか、最寄りの警察署「住民コーナー」で相談してください。

- 問合せ 足助警察署 電話62-0110 (地区内の駐在所への連絡は同番号へ: 転送されます)



わが家の住宅用火災警報器、今すぐチェック!

住宅用火災警報器は、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。火災から生命や財産を守るため、本体の交換については、10年を目安にさせていただくことをお勧めしています。

- 問合せ 足助消防署 電話62-0119



地元の有志による「しもやまるしえ」を開催します!



農産物やキッチンカーによる飲食物の販売を始め、キッズスペース、生演奏のステージなど、こどもも楽しめるマルシェを開催しますので、ぜひお越しください。詳しくはホームページで。

- 日時: 10月10日(土) 10時から15時 ■ 場所: 香恋の館



下山交流館 まなびのひろば

豊田市下山交流館

開館時間：午前9時～午後9時

(図書の貸出・返却は午後8時まで)

休館日：月曜日(祝日、振替休日を除く)・年末年始

連絡先：TEL0565-91-1650/FAX0565-91-1030

ホームページ：<http://ph-toyota.jp/guide/shimoyama/>

指定管理者：公益財団法人豊田市文化振興財団



事業案内

くらふとサロン カルトナーージュ

ヨーロッパ生まれの厚紙工芸品

【日時】10月20日(火)10時～正午

【対象/定員】成人/8人

【材料費】1,000円

【会場】下山交流館

【内容】トレイ作り

【申込み】9月24日(木)9:30～



ビームライフル体験講座

～オリンピックへの道～

【日時】10月31日(土)10時～正午

【対象/定員】どなたでも/25人

(小学3年生以下は保護者同伴)

【会場】愛知県総合射撃場

【内容】ビームライフル体験及び射撃場見学

【申込み】9月25日(金)9:30～

参加費
無料



大人の趣味 そば打ちをたしなむ

【日時】11月11日(水)10時～12時半

【対象/定員】成人/12人

【参加費】2,300円(材料費込み)

【会場】下山保健福祉センター まどいの丘

【講師】下山元気そば愛好会

【申込み】10月6日(火)9:30～



新型コロナウイルスの影響で事業が中止や変更になる場合があります。

★詳細につきましては、交流館 HP
またはチラシをご覧ください。



下山交流館
ホームページ
QRコード

お知らせ

図書館で使われなくなった
本を無料で配布します！

日程：10月15日(木)～11月15日(日)
(休館日は除く)

場所：下山交流館 1階廊下

★冊数制限はありません。
なくなり次第終了します。

★持ち帰り用のエコバック持参をお願いします。



自主グループ紹介

ゆいか
結花 (フラダンス)



穏やかな曲、楽しい曲に合わせて体を動かし、
楽しく踊っています。気持ちも楽しくなりますよ！
随時メンバー募集中です！見学もOK！

★活動日時 毎月第1・3水曜日13時～15時

★活動場所 視聴覚室

病人を守ろうとした

みずなし田の尼寺

絵と文 なかむらとこ

ずんと昔、立岩の山奥に尼寺があったげな。付近はぐで地(湿地)が多い所であったが、なぜだか「みずなし田」と呼ばれておった。尼寺の庭には、たとえ実のなる大きな梨の木があったけど、尼寺が無くなるまで、この梨を食べると病気になるぞなどと、言われおった。

その昔、今でいうハンセン病の病人が幾人も出てな。今じゃあ気を付けおらばうつらなし、薬で治る病気が、原因も治し方も分からん昔の人々は恐ろしがって病人も病人の家族も村八分にされるような有様だったげな。だけどそんな時にもやさしい尼さんが居たんだぬ。家族達は、山奥の尼寺に、病人を置いてもらい、食べ物を運んで、病人の回復を祈ったげな。だがな、家族達の暮らしは苦しくなるばかり。終には山へ食べ物を運んでや

れなくなってしまうたげな。病人も尼さんも草でも食うしかなくなって、一人二人と亡くなり、とうとう尼寺は人が絶え朽ち果ててしまったらうな。

それからみずなし田の梨を食うと腹を壊すとか、ミツ又じやない、又ワラビが生えるのは祟りだなどと、噂がたつておったんだ。だけどな、じぢやんが子どもん時に

みずなし田で遊んで梨を食ったが、腹は壊さなかったよ。助けておれんで後で悔も心が痛むんだよ。家族にうつろいように、村を守るために山に入った病人も、尼さんはまるで違ふ人間のように差別され打ち捨てられる悲しみを、もう繰り返すなよと願っておられるじぢやあなかなあ...

